

4号機廃棄物処理建屋における水漏れに関する調査結果について

平成18年8月8日、定格出力運転中の4号機において、廃棄物処理建屋地下1階で液体廃棄物処理系の配管に設置された弁の分解点検を実施していたところ、点検中の弁の開放部より水が漏えいし、飛散した水が点検作業中の協力企業作業員（2名）の体にかかりました。

漏えいはすぐに停止したため、点検を中断し、当該弁を復旧しました。

また、放射能測定の結果、作業員に汚染はありませんでした。

なお、漏えい水の量は約31リットルで堰内にとどまっており、放射エネルギーは約 6.2×10^5 ベクレルでした。（[平成18年8月8日お知らせ済み](#)）

調査の結果、以下のことがわかりました。

- ・当該弁が設置された配管は、原子炉格納容器機器サンプ*¹などの排水配管と接続され、廃液収集タンクに導かれていた。
- ・本事象発生時、原子炉格納容器機器サンプの水位が上昇してサンプポンプが自動起動したため、当該弁の配管に水が流入し、点検中の弁の開放部より水が漏えいした。また、当該サンプポンプが自動停止したことにより漏えいは停止した。
- ・作業主管グループは、原子炉格納容器機器サンプの排水配管は直接廃液収集タンクに導かれていると思い込んでいた。

水漏れの原因は、作業主管グループの作業計画の段階において、液体廃棄物処理系では排水配管が直接タンクへ導かれているものが多いことから、原子炉格納容器機器サンプの排水配管も同様に敷設されていると思ひ込み、配管の敷設状況について図面等による十分な確認をせず、原子炉格納容器機器サンプポンプの自動起動を考慮しなかったことによるものと推定しております。

対策として、作業計画の段階においては配管敷設図により、水の流入の可能性について十分に確認することを徹底いたします。

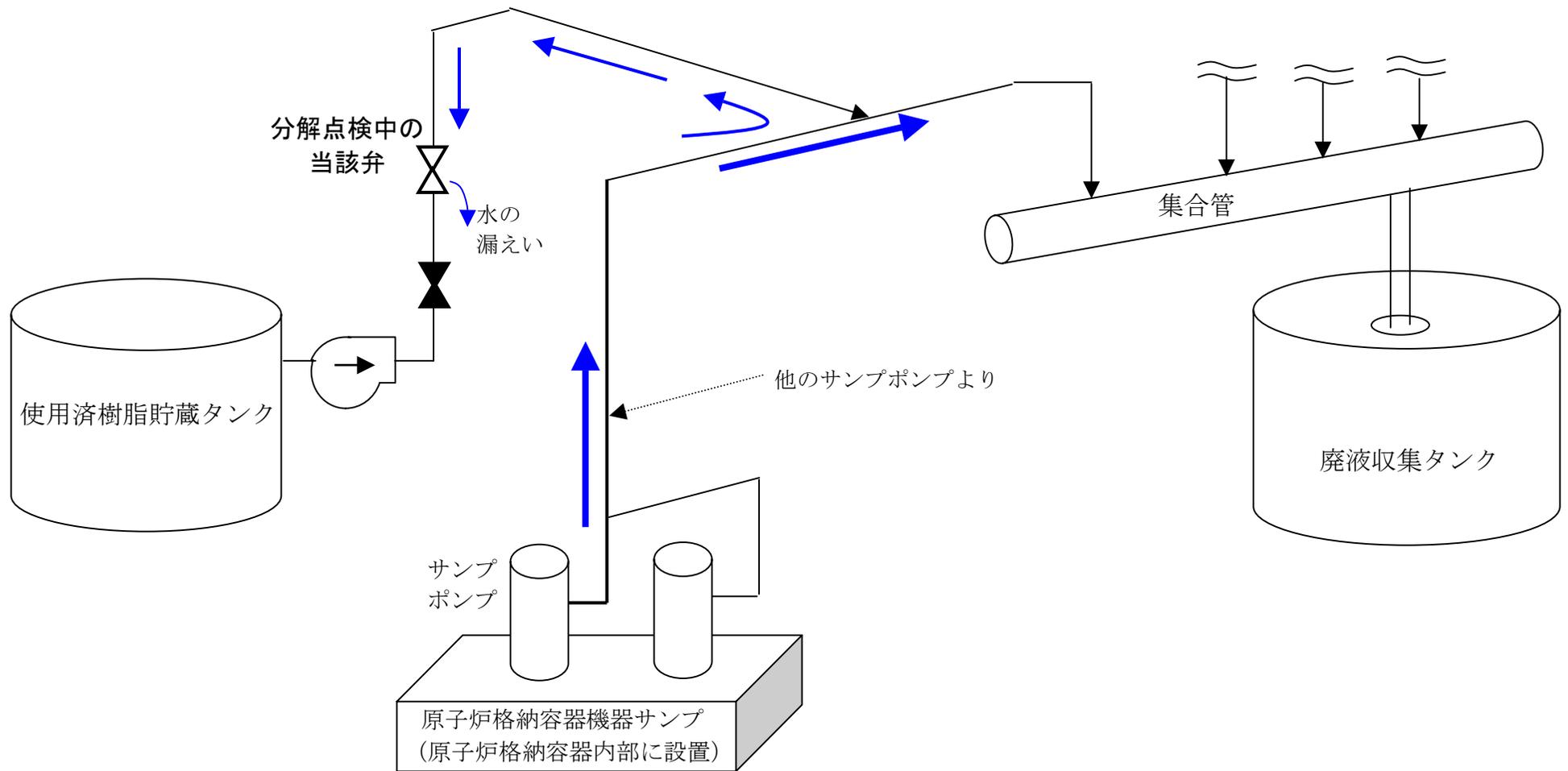
また、当該弁の点検はプラント停止中の原子炉格納容器機器サンプポンプの点検時などにあわせて実施することとし、類似の弁についても、点検時期を見直すことといたします。

なお、本事象については関係者による事例検討会を実施し、再発防止に努めてまいります。

以上

* 1 原子炉格納容器内機器サンプ

原子炉格納容器内の機器からの排水を一時溜める槽。



4号機廃棄物処理建屋における水漏れ概要図